香蘭ファッションデザイン専門学校　令和5年度　自己点検・評価表

一般社団法人 全国専門学校教育研究会
「職業実践専門課程等を通じた専修学校の質保証・向上の推進」
(3)職業実践専門課程等の充実に向けた取組の推進
①社会的評価の一層の向上のための共通的基盤整備の推進
「職業実践専門課程の充実に向けた自己点検・評価システムの検証と質保証・向上のための取組:22年度版」3-2.職業実践専門課程認定校用を使用

実施日: 令和　6年　10月　1日

学校名: 学校法人山内学園
香蘭ファッションデザイン専門学校

■評価基準

・4(適切):提示したエビデンスにより、第三者を含む多くの者が「適切」と判断できる

・3(ほぼ適切):エビデンスが不十分である

・2(やや不適切):エビデンスは示せないが、取組自体は行われている

・1(不適切):取り組まれていない

1. 学校の教育目標(教育理念)

香蘭ファッションデザイン専門学校教育理念「人間教育と技術教育」

香蘭ファッションデザイン専門学校が掲げる教育理念「人間教育と技術教育」を「人間教育＝社会人基礎力」、「技術教育＝実務技術経験と技術習得」とします。
香蘭ファッションデザイン専門学校は、山内学園の3つの柱の一つです。
専門学校は、職業教育を行う高等教育機関、「専修学校専門課程」であり、その教育は、専門業界に直結した「技能教育」の習得です。「技能習得」は当然のことながら、香蘭ファッションデザイン専門学校が最も重要視している事が、「人間教育」です。
どんなに優れた技術があれども働くのは人間であり、その人間性が豊ではないと仕事に、また、人間関係に支障を来すからです。
これから先、どんなに時代が変ろうとも、先人が建てられた「人間教育と技術教育」の理念は崩しませんので、全職員、学生に手本を示すような行動と言動を心がけていきます。
男女共学の服飾専門課程である専門学校ですので、学園の建学の精神を根幹としながら、ファッション業界の知識、そして高度な技術に特化した専門分野の業界人の育成を掲げ、「いかなる困難な場にあっても、創意・工夫を大切にし、人を愛し人から愛される自立した人材の育成」すなわち、「人間教育と技術教育」であるとします。

■「人間教育＝社会人基礎力」とは。
技術のスキルだけでなく、どんな困難な時でも、知恵を出し、人を助け、人から必要とされる人材の育成です。
主に学内での指導は、「当然を当然のようにこなせる」を主とし、遅刻・欠席をしない事は当然のことながら、日常的行われる教育の到達点として・・・
「人柄」＝気持ちの良い挨拶・返事、笑顔。
「整理整頓」＝掃除/事前準備、時間短縮。
「積極性」＝知る・聞く・学ぶ、チャレンジする勇気。
「愛情」＝人に寄り添い、協力しあえる心を育成することを狙いとします。

■「技術教育＝実務技術経験と技術習得」とは。
ファッションを通しての業界の技術、つまり、各学科で掲げた社会的役割を理解させることであり、多感な学生時期に多く反復経験をさせ、確実な技術の習得を狙います。
また、各個人の習熟度を図るべく、定期試験や各種検定へ促し、更に、外部コンテストなども大いに利用しながら、学生の達成感を向上させていきます。

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画(教育の特色)

◆全体目標
本校最大の特色ある教育は、歴史に裏付けされた絶対的な「学生からの信頼」と「技術教育」の担保です。
諦めずに学生と向かい合う教育の姿勢は、多くのことを学んでもらいたいという教育者としての強い思いから成り立っており、また一人一人と真剣に向き合う姿勢は、学生と共に成長をするという喜びを得る(教育の真髄)ために常に学生に語りかけていきます。些細な変化を感じられるよう密なコミュニケーション力を発揮できるよう担任制を構築しています。
本校は、「専修学校専門課程」であり、主に職業教育を行う高等教育機関です。
香蘭ファッションデザイン専門学校の特徴は、ファッション業界の職種に直結した「知識・技能」の習得であり、教示する目標として、学生の姿勢「心・技・体」のバランスを取るように指導し、特に「心」は全てに繋がるものなので、本校の「人間教育」にもある「愛情をもって」成長できる体制がづくりが必要です。また「技」はすべての技は「反復」から学ぶものであり、近道は無いのだという厳しくとも伝え続けるスタンスを守ること。「体」は働くものとして健康が一番大事であるが、日頃からの健康管理を促し、同時に働くとはという意識づくりを前提にしながら試行錯誤しながら考えて動ける能力を付けさせる事が必要です。結果として「自立」させるために「守・破・離」を目指させ、その結果、実社会に貢献できる人材の輩出がその教育の主なる目的です。

●ファッションは人と人を結ぶ「幸せの」ツールです。学生の成長を間近に感じながら、学生が満足しているか、困っていないかを推し計りながら進化し続ける事が求められますので、本校が学生に提供する基本的教育方法は「対面教育」です。
人から人へ温かみを伝えていくには、常にコミュニケーションが求められます。この「対面教育」を確固たるものにするには、前述したように私達職員の「柔軟性」が求められます。

●ファッション教育の中で「心・技・体」と「守・破・離」は、高度かつ専門的な教育を受けてきた学生(人材)が、業界の発展、または企業の発展を支えるための「知識・技術習得」が主とされています。
学生時代に様々なことを経験し、その経験値に基づきながら、業界と共に成長していく事が求められます。つまり、卒業後は「即戦力」として第一線で活躍せねばなりません。そのためには、常に業界の動向に敏感になることは当然のことながら、経済、社会性なども同時に敏感にならねばなりませんので「情報量」と「情報発信力」が必要です。また、自分にはこれができるという特色をつけさせる「セルフプロモーション力」を強化する事。同時に、社会的常識と協調性の教示も必要です。

●全学科に共通するファッション業界で必要な人材としての資質は、「感性」だと考えます。
まだ実力が未知数の学生が新しいデザインを生み出していくには、学生時期に様々なチャレンジをし、その経験を通して「五感」に刺激を与え、本来眠っているはずの「感性」を呼び覚ませる事ですので、「五感」の育成強化と、それを表現できる「アウトプット力強化」を目指していきます。その他にも、時間管理、更には数字に強くなくてはならず、特にファッションビジネスの現場では、生産管理や店舗運営のための計数をはじめ、マネージメント力、更には発信力やセルフプロデュース力も必要となっています。

●これからの時代は教員自ら新しい風を読み、受動的な教育だけではなく、柔軟性をもちながら学生の学びの目的を明らかにした、教員と学生の相互評価「ルーブリック評価」を全学科活用していきます。

その他の目標
【◆常に学生と向きあった人材育成】【◆これから先、取り組むべき人材教育:アウトプット力】【◆知名度の高さを維持】【◆検定合格率・各種コンテスト入賞歴・著名人の講義】【◆人材力と団結力】【◆学外コンテストへの補助金(年度毎要検討)】

◆学校運営の方針
『和を持って尊ししとなす』
「私たち職員は学園の理念を最も理解し、同じ目標を目指すファミリーです。」
香蘭ファッションデザイン専門学校の教育の価値向上を前提とし、ファッション教育を持続し業界に貢献できるように、全職員で教育の質向上を目指すように協力し合い、ファッション教育と学校の運営全体を見直し、新たな基準を整備する年にします。
同時に定員確保を至上命題と認識し、募集活動や広報活動に貢献します。

◆令和6年度教育全体の方針
「主役は"学生"、教育の喜びは "学生の成長と発展" 学生の言葉に耳を傾ける」
「ファッション教育に携わる業界のプロフェッショナル」である職員は、全国の数ある競合校の中から、夢を持ち本校に集まってきた学生に対しての教育の姿勢として、『学生の成長は、私たちの喜び、学生の成果は、私たちの誇り、各自が持つ夢を実現できるように、志に変換できる『手助けを』するという意識』を常に持ってもらいます。
それには、全職員、本校の「教育理念」を基に、これまでの実績や経験にとどまらず、新しい時代を受け入れ、創意工夫しながら『生きる知恵』と、『技術的能力』を教示し、同時に『人間力』を引き出し、最終的に『自立』出来る教育を実施します。
教育者である私達が常に自覚せねばならない事は、「方法論も過去に囚われすぎて、合理性を追求するが上に、思考が形骸化されている事」だと思います。
つまり、現場に長くいると、「これまではこのやり方だったから」、「昨年はこうだったから」、「自分で判断より周りに合わせよう」という守りの姿勢になりがちで、気付けば専門人材の教育から逸脱し、通常の教育のみなっていることです。これまでの教授方法や資料も新たに見直し、今の時代にあった内容に特化します。
私達職員が長年培ってきた技術と享受方法は財産ですが、現在の学生はD X世代です。全て答えがある事を前提とした思考ですので、今後は、「見える化」を前提とした方法に変えてみる事や、教員自らも進化せねばという自覚を持つ事は、教育のプロフェッショナルであれば、創意工夫しながら授業のあり方を工夫すべきだと考えます。
学生に真剣に対峙し、隠れた才能を見出し、未知なる可能性にトライする姿勢を持たせ、最終的に成長し自立できる力を促していく、そんな人の成長に携わるのが私たち専門学校職員の仕事である事を常に自覚して指導に向き合います。

3. 評価項目の達成及び取組状況

1 教育理念・目標				適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1				エビデンス
1	1	中項目	理念・目的・育成人材像(教育理念(建学の精神)・目的・目標、育成人材像等が明文化されているか。職業教育機関として専修学校教育に必要とされる考え方や指針、内容等が盛り込まれているか)					
1	1	1	学校の理念・目的・育成人材像は定められているか(専門分野の特性が明確になっているか)	4	3	2	1	寄附行為又は定款、学則その他教育上の目的を定めた資料、事業計画書、学生要覧、HP
1	1	2	学生・保証人(保護者)に対して教育理念等を明文化し、周知しているか	4	3	2	1	学校案内パンフレット、学生要覧、HP
1	1	3	教職員に対して教育理念等を明文化し、周知徹底を図っているか	4	3	2	1	事業計画、学生要覧、HP
1	1	4	学外の方に対して教育理念等を明文化し、公表しているか	4	3	2	1	事業計画、学校案内パンフレット、HP
1	2	中項目	教育の特色(社会や関連業界のニーズを踏まえた将来構想を描いているか)					
1	2	1	各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか(コース修了後に、学習者がそのコンピテンスのレベルを必要とする目的や状況が明確にされているか)	4	3	2	1	事業計画、学校案内パンフレット、HP、教育課程編成委員会議事録
1	2	2	社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか (学校の将来構想を描くために、業界の動向やニーズを調査しているか)	4	3	2	1	事業計画、教育課程編成委員会議事録、学校関係者評価委員会議事録
1	2	3	学校における職業教育の特色は明確になっているか	4	3	2	1	事業計画書、学校案内パンフレット、HP、カリキュラム一覧表、シラバス

① 課題
教育理念・目標については、定期的に見直しが行われ、職員、学生に十分に周知されており明文化されている。また、職員会議や始業式、終業式等においても定期的に周知されている。 教育の特色における学校の将来構想については、業界の動向やニーズを調査が不十分なうえ将来構想に活かされていない。
② 今後の改善方策
教育課程編成委員会や学校関係者評価委員会等での意見にとどまらず、各学科ごとに業界の動向やニーズを調査し主任会議等で中長期的な学校の将来構想を議論する機会を設ける。
③ 特記事項

2 学校運営				適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1				エビデンス
2	1	中項目	運営方針(運営方針は教育理念等に沿ったものになっているか)					
2	1	1	教育方針や教育目的等に沿った運営方針が策定されているか	4	3	2	1	事業計画、職員会議事録
2	1	2	運営方針を教職員に周知しているか、また必要に応じてその理解の状況を確認しているか	4	3	2	1	事業計画、職員会議事録
2	2	中項目	事業計画(事業計画を作成し、執行しているか)					
2	2	1	運営方針に沿った事業計画を策定し共有しているか	4	3	2	1	事業計画、事業計画を共有した証拠(メール)
2	2	2	学校の年間スケジュールはあるか	4	3	2	1	年間行事予定表、学則(学期)
2	3	中項目	運営組織(運営組織や意思決定機関は効率的なものになっているか)					
2	3	1	寄附行為、理事会会議規則等(法人)、学校の運営規程等が整備され、それらに従って理事会・評議員会(法人)、学校の運営会議等が開催されているか	4	3	2	1	寄付行為施行細則、事業報告書、理事会議事録、評議員会議事録
2	3	2	運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4	3	2	1	就業規則類
2	3	3	組織機能図があるか	4	3	2	1	組織図、職員各係表
2	3	4	運営会議(教職員会議・教員会議等)が定期的に開催されているか	4	3	2	1	年間行事予定表、教職員会議事録、主任会議事録
2	3	5	出退勤管理簿があるか	4	3	2	1	出勤簿
2	3	6	教職員の健康診断がされているか	4	3	2	1	年間行事予定表、教職員健康診断実施記録、就業規則
2	3	7	施設設備の保守・管理が定期的に行われているか	4	3	2	1	各点検結果報告書
2	4	中項目	教職員の評価・育成(教員及び職員の能力評価・能力向上に向けた取組みを行っているか)					
2	4	1	資格・要件を備えた教員を確保しているか	4	3	2	1	職務経歴書(履歴書)、実務経験者一覧、教員認定証
2	4	2	現に教員数が充足していない場合、採用活動を行っているか、または、教員資格等取得に向けた教育・指導を行っているか	4	3	2	1	HP、求人申込書
2	4	3	授業評価の実施・評価体制はあるか	4	3	2	1	授業改善アンケート
2	4	4	教員の組織体制を整備しているか	4	3	2	1	事業計画、組織図

2	4	5	職員の能力開発のための研修等が行われているか	4	3	2	1	各科研修報告書、外部研修受講申込書
2	4	6	関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成等資質向上のための取組みが行われているか(研修等の効果を評価し、文書により記録しているか)	4	3	2	1	各科研修会報告書
2	4	7	教育の成果(学修結果)に基づく教員面接を実施しているか	4	3	2	1	授業改善アンケート、ルーブリック評価
2	4	8	[職業実践専門課程]専攻分野に係る関連分野の企業・団体等と連携し、実務に関する研修や指導力の修得・向上のための研修等を教員の業務経験や能力、担当する授業や業務に応じて組織的・計画的に受講させているか	4	3	2	1	各科研修報告書、職業実践専門課程の基本情報について
2	4	9	教員に対して、割り当てられた職務及び責任、学習サービスの評価結果、本人の専門能力開発のニーズに対する見解を考慮に入れて、専門能力開発の計画を作成しているか(教職員研修計画の作成)	4	3	2	1	
2	4	10	教育内容の改善を図るため、教職員と非常勤講師等との定期的な情報交換を行っているか	4	3	2	1	定期的に各学科でミーティングを実施
2	5	中項目	人事・給与制度(人事・給与に関する制度を確立しているか)					
2	5	1	人事に関する制度を整備しているか	4	3	2	1	就業規則
2	5	2	給与に関する制度を整備しているか	4	3	2	1	給与規程
2	5	3	昇給・昇格制度は文書化されているか	4	3	2	1	給与規程、役職者の任命及び昇格等に関する規程
2	5	4	採用制度は文書化されているか	4	3	2	1	就業規則
2	6	中項目	情報システム(情報システム化等による業務の効率化が図られているか)					
2	6	1	情報システム化等による業務の効率化が図られているか (情報システム化に取組み、業務の効率化を図っているか)	4	3	2	1	導入されている学籍管理システムの概要を示す資料

① 課題

学校運営に関しては、事業計画および学園の規程等に基づき、適切に行われている。
しかし、現場に様々な業務が付加されてきたことや、放課後も学生指導に多くの時間を費やさなければならない現状があり、個別面談や文書化などの事務処理にまで時間が割けていない。また、教職員の評価・育成に関しては、個人目標に対しての自己評価のみ実施している状況であり、客観的指標に基づく、各職務遂行レベルを適正に把握、評価できていない。

② 今後の改善方策
時間の確保については業務改善の観点から、 ①タイムカード等により勤務時間を客観的に把握・集計するシステムを構築し、教職員の意識改革を促す ②学外からの依頼事項の精選や人的配置および業務量を俯瞰、一元的に管理する ③指導案の共有化を検討し、授業準備を含めた技術指導時間の適正化や業務改善・効率化への支援を行う 評価方法等の確立については能力開発および資質向上の観点から、 ①人事評価制度の構築 ②管理職の評価能力向上のための研修 以上を組織的に行えるよう検討する
③ 特記事項

3 教育活動				適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1				エビデンス
3	1	中項目	目標の設定(教育理念、教育目的および育成人材像に沿った教育課程を編成・実施しているか)					
3	1	1	教育目的および育成人材像に基づき教育課程の編成・実施方針(カリキュラムポリシー)を明示し、また学校構成員(教職員および学生等)に周知し、社会に公表されているか。また定期的に検証を行っているか	4	3	2	1	事業計画、学生要覧、学校案内パンフレット、HP、職員会議事録、教育課程編成委員会議事録
3	1	2	教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4	3	2	1	事業計画、学生要覧、カリキュラム一覧表、シラバス
3	1	3	教育目的および育成人材像に基づきディプロマポリシーを明示し、また学校構成員(教職員および学生等)に周知し、社会に公表されているか。また定期的に検証を行っているか	4	3	2	1	事業計画、学生要覧、学校案内パンフレット、HP
3	2	中項目	教育方法・評価等(各学科の教育目標、育成人材像に向けて、体系的なカリキュラム作成などの取組がなされているか)					
3	2	1	教育理念・到達目標に沿って学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4	3	2	1	カリキュラム一覧表、シラバス
3	2	2	講義および実習に関するシラバスは作成されているか	4	3	2	1	シラバス
3	2	3	各科目の一コマの授業について、その授業シラバスが作成されているか	4	3	2	1	シラバス
3	2	4	シラバスあるいは講義要項(作成されていればコマシラバス)などが事前に学生に示され(あるいはホームページなどで公開されて)、授業で有効活用されているか	4	3	2	1	シラバス、HP
3	2	5	適切な評価体制を有し、授業評価が実施されているか(教育内容およびその評価方法、評価項目、手段、スケジュールは適切か)	4	3	2	1	シラバス、学生要覧、教育課程編成委員会議事録
3	2	6	質保証を目的とした授業や学習の定期的な観察を実施しているか	4	3	2	1	
3	2	7	学生によるアンケート等で、適切に授業評価を実施しているか(学習の目的を満たしているか、満足度を含めて定期的に確認しているか)	4	3	2	1	授業改善アンケート

3	2	8	評価結果を教員にフィードバックするなど、その結果を授業改善に役立てているか	4	3	2	1	授業改善アンケート
3	2	9	カリキュラム作成の際、複数のメンバーによるカリキュラム作成やカリキュラム作成委員会等の形で、作成したカリキュラムの検証が行われているか	4	3	2	1	教育課程編成委員会議事録、学科会議
3	2	10	カリキュラム作成メンバーの中に業界関係者などの外部関係者を入れているかまたはその意見を取り入れているか	4	3	2	1	教育課程編成委員会議事録
3	2	11	キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリュキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4	3	2	1	教育課程編成委員会議事録、職員会議事録
3	2	12	関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられ、その内容、評価法などが事前に決められているか	4	3	2	1	教育課程編成委員会議事録、シラバス、職業実践専門課程企業用評価シート
3	2	13	[職業実践専門課程]専攻分野に係る関連分野の企業・団体等と連携し、演習・実習等を行っているか	4	3	2	1	職業実践専門課程の基本情報について、連携企業との実施に関する協定書
3	2	14	企業・施設等での職場実習（インターンシップ含む）があるか	4	3	2	1	店舗研修実施概要書類、誓約書、研修評価表、出勤簿
3	3	中項目	成績評価・単位認定等（成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか）					
3	3	1	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	4	3	2	1	学生要覧、シラバス
3	3	2	学生や保証人（保護者）に対し、成績評価・単位認定の基準、進級要件、卒業要件はきちんと提示されているか	4	3	2	1	学生要覧、シラバス、HP
3	3	3	各規定に基づいて適切に成績評価・単位認定、進級・卒業判定を行っているか	4	3	2	1	学生要覧、シラバス、進級および卒業判定会議資料
3	3	4	[職業実践専門課程]専攻分野に係る関連分野の企業・団体等と連携し、学生の学修成果の評価を行っているか	4	3	2	1	シラバス、学生要覧
3	4	中項目	資格・免許取得の指導体制（資格・免許取得のための指導体制があるか）					
3	4	1	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4	3	2	1	カリキュラム一覧表、シラバス
3	5	中項目	キャリア教育等（基礎的・汎用的能力（① 人間関係形成・社会形成能力、② 自己理解・自己管理能力、③ 課題対応能力、④ キャリアプランニング能力）を身につけるための取組が実施されているか）					
3	5	1	キャリア教育を行ない、学生の社会的・職業的自立に向け必要な基盤となる能力や態度を育成しキャリア発達を促しているか	4	3	2	1	連携企業との協定書、シラバス、キャリアガイダンススケジュール表、キャリアガイダンス配布資料
3	5	2	高校・高等専修学校等へキャリア教育・職業教育等の取組みを実施しているか。	4	3	2	1	依頼書

① 課題
教育活動における目標の設定、教育方法、評価の体系はシラバス等により概ね整備されているが、質保証を目的とした授業や学習の定期的な観察は実施できていない。また、体系的なカリキュラムの作成についは十分とは言えず、特に授業評価をフィードバックする仕組みや、カリキュラム作成時の業界関係者の意見を取り入れる仕組みが不十分である。
② 今後の改善方策
質保証を目的とした授業や学習の定期的な観察については、外部講師授業については、担任及び副担任が質保証の観点で観察を行い、担任が行う授業については主幹教員による定期的な観察を実施する。 また、カリキュラム作成時に教育課程編成委員会での意見や授業改善アンケートの反映を徹底する。
③ 特記事項

4 学修成果・教育成果				適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1				エビデンス
4	1	中項目	学修成果(各学科の教育目標、育成人材像に向けてその達成への取り組みと評価がされているか)					
4	1	1	コース全体を通して、及びコースの修了時に、学習者の習熟状況をアセスメントしているか	4	3	2	1	前後期成績一覧
4	1	2	学生の学修成果の評価に際して、育成する人材像に沿った評価項目を定め、明確な基準で実施されているか(測定する知識、スキル及び能力、測定の基準、アセスメントの方法は明確か)	4	3	2	1	学生要覧、シラバス、ルーブリック評価表
4	2	中項目	就職率(就職率の向上が図られているか)					
4	2	1	就職率の向上が図られているか(結果を分析し、就職指導・支援の改善を図っているか)	4	3	2	1	就職状況調査、主任会議事録、担任および就職担当が個別面談を実施
4	2	2	学生の就職に関する目標が、教職員に共有されているか	4	3	2	1	事業計画
4	2	3	学生の就職活動に関する記録がなされているか	4	3	2	1	会社訪問・説明会・ｲﾝﾀｰｼｯﾌﾟ報告書、就職試験受験報告書、個人進捗報告書
4	2	4	対外部に向けた就職実績を公表しているか(パンフレット・HP等)	4	3	2	1	学校案内パンフレット、HP
4	3	中項目	資格・免許の取得率(資格・免許取得率の向上が図られているか)					
4	3	1	資格取得率の向上が図られているか(目標とする資格試験等への合格率は全国平均と比較してどうか)	4	3	2	1	検定試験取得率
4	3	2	資格・検定・コンペに関する目標を設定したか	4	3	2	1	事業計画、カリキュラム一覧表、シラバス
4	3	3	資格・検定・コンペに関する目標・計画が教職員に共有されているか	4	3	2	1	事業計画、カリキュラム一覧表、シラバス
4	3	4	資格・検定・コンペ結果に関して検証・報告がされたか	4	3	2	1	学科会議にて口頭による検証と報告

4	3	5	資格・検定・コンペの結果(合格者数・合格率)を公表しているか	4	3	2	1	学校案内パンフレット、HP
4	4	中項目	社会的評価(卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか)					
4	4	1	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか(卒業生の就職後の動向を出来るだけ把握し、卒業後にも就職その他の支援を行っているか)	4	3	2	1	在職者確認一覧、就職状況調査、既卒向け求人申込票、会場・什器貸出依頼書

① 課題

学修成果は各学科の目指す人物像に沿って、概ね達成されている。しかし、修学を進めるうちに、目指す人物像にそぐわなくなる学生もいる。学生の個別指導を強化し、早期に進路指導や適正評価を実施する必要がある。また学科の目指す人物像にフィットするかを定期的に確認し柔軟な対応を検討。
就職率について、働き方の意識変化により、正社員を希望しないケースや独立志向の学生が増加しているため、就職率の数値には反映されない事例が見られる。伝統的な就職率指標が新しい働き方の多様性に対応できていない。就職率だけでなく、独立やフリーランスなどほかのキャリアパスも評価する指標の導入が必要ではないか。
資格取得率について、全国的に高い合格率を維持しているが安定的ではない。検定試験対策に時間の多くを割けないカリキュラム構成の為、資格取得に対する学習時間の確保が課題。カリキュラム内での効率的な対策の仕方を見直し、講義開発が必要である。
社会的評価について、卒業後すぐの就職先については企業アンケートにより追跡可能だが、転職後の動向は把握が難しく、キャリアの長期的な追跡が不十分で社会的評価の全体像がつかみにくい。

② 今後の改善方策

学修成果については、学生一人ひとりに寄り添った丁寧な面談と、学生が目標を設定し達成していけるようにロードマップの提案とその取り組みに伴走する。将来のキャリアビジョンを描けない学生へは個別進路相談の強化をする。
就職は、就職年の前年度より早期に準備を進めて動き出し、チャンスを逃さないように指導をおこなう。
資格は、通常の授業の中で対策が出来るようにカリキュラムを工夫し、必要な知識をしっかりと身に付けられる仕組みを作ることで、対策講座を効率よく進められるようにして資格取得率を安定させる。
社会的評価は、卒業後もつながりを大切にし、同窓会以外での交流の場を設けるなど、同窓生のネットワークでキャリアを追跡できるようにする。また卒業生が働く企業とのつながりを大切にし、定期的にフィードバックをいただけるように細やかな連携を構築し、社会の要望に応じた学生の成長を促す。

③ 特記事項

5 学生支援				適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1				エビデンス
5	1	中項目	修学支援(学生に対する修学支援に関する支援組織体制を整備し、学生が学修に専念し、安定した学生生活を送ることができるように図っているか)					
5	1	1	学生への修学支援を適切に行っているか	4	3	2	1	修学支援の一環としての奨学金に関するHP、学籍管理システム記録
5	2	中項目	就職等進路(就職・進学指導に関する支援体制は整備され、有効に機能しているか)					
5	2	1	進路・就職に関する支援体制は整備されているか(学生や保証人(保護者)に周知されているか)	4	3	2	1	新入生保護者会資料、保護者向け成績通知表同封書類、キャリアガイダンススケジュール
5	3	中項目	学生相談(学生相談に関する体制は整備されているか)					
5	3	1	学生相談に関する体制は整備されているか(相談窓口が設置されているか)	4	3	2	1	学生要覧、職員各係表
5	3	2	学生の面談・相談記録があるか	4	3	2	1	学籍管理システム記録
5	4	中項目	学生生活(学生に対する経済的な支援体制は整備されているか。学生の健康を担う組織体制はあるか。生活環境支援体制を整備しているか)					
5	4	1	奨学金制度など、学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4	3	2	1	学校案内パンフレット(募集要項)、奨学金説明会資料
5	4	2	学生の健康管理を担う組織体制はあるか(学生の健康診断を実施しているか、また健康相談窓口は整備されているか)	4	3	2	1	年間行事予定表、健康診断結果報告書
5	4	3	課外活動に対する支援体制は整備されているか	4	3	2	1	職員各係表
5	4	4	学生の生活環境への支援は行われているか(学生のアパート探しなど、住環境への支援体制はあるか)	4	3	2	1	学生寮の資料、不動産提携および紹介業者パンフレット
5	5	中項目	中途退学への対応(退学率の低減が図られているか)					
5	5	1	退学率の低減が図られているか(受講登録、出欠状況及び学習者の減少に関する分析が行われているか)	4	3	2	1	学籍管理システム記録、担任面談
5	5	2	退学率の目標を設定しているか	4	3	2	1	事業計画
5	5	3	退学率の低減に関する目標・計画が教職員に共有されているか	4	3	2	1	事業計画、主任会議事録
5	5	4	退学者数を公表しているか	4	3	2	1	大学等における修学の支援に関する法律第7条第2項に基づく確認申請書(様式第2号の4-②)
5	6	中項目	保証人(保護者)との連携(保証人との連携体制を構築しているか)					
5	6	1	保証人(保護者)と適切に連携しているか(保証人のニーズを把握しているか)	4	3	2	1	前後期成績通知表および年間スケジュール文書の送付記録、保護者会資料
5	6	2	保証人(保護者)との計画的な相談会・面談を行っているか	4	3	2	1	三者面談記録(進級作品展)、電話連絡

5	7	中項目	卒業生・社会人支援(卒業生の動向を把握しているか。社会人のニーズを踏まえた教育環境を整備しているか)					
5	7	1	卒業生への支援体制を整備しているか(再就職、キャリアアップ等について、相談に乗っているか)	4	3	2	1	元担任および就職担当が個別に支援
5	7	2	卒業生への卒後教育等の支援体制はあるか(卒業生への講習・研修を行っているか)	4	3	2	1	HP、夏期講習会実施記録
5	7	3	社会人学生のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4	3	2	1	学校案内パンフレット、HP、ソーイング科案内文書

① 課題

中途退学への対応に苦慮している。入学前の段階で1年間で10日以上休んでいる学生について、事前リサーチを行いあらかじめ配慮が必要な情報はクラス担任と共有した上で新年度をスタートさせているが、少々の体調不良でもすぐに休むことにためらいを感じない学生が増加している。クラス担任は適宜指導しているが、教員の常識が学生に伝わらないケースが増えてきている。無断欠席があるとご家庭に連絡を入れているが、支援があるご家族と、そうでないご家族に分かれている。遅刻者は事務室で把握できるようにしているが、固定化された学生はなかなか改善されていない。原因究明の分析が急務である。担任、主任などへの面談で改善を図るが、退学者が減った、という改善がなかなか見られない現状である。

② 今後の改善方策

懸命にクラス運営に携わっている教職員ばかりだが、様々な背景を持つ学生が多くなってきたため、様々な学生への対応策など、教員に対する研修も必要と感じる。 並行して、余裕のなさを学生に感じさせないよう、教員の業務の負担が偏らないような配慮をしなければならない。

③ 特記事項

6 教育環境				適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1				エビデンス
6	1	中項目	施設・設備等(施設、設備は教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか)					
6	1	1	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか(講義室は学生数、時間割にあわせ、無理なく配備されているか)	4	3	2	1	学校設置認可申請書、校舎配置図等、時間割、施設・備品管理台帳(写)
6	1	2	学生が利用できる参考図書・関連図書は備えられているか	4	3	2	1	校舎配置図等
6	1	3	教育上の必要性に対応した機材・備品を整備しているか	4	3	2	1	施設・備品管理台帳(写)
6	1	4	分煙・禁煙等に関する規定が文書化・掲示されているか	4	3	2	1	口頭案内
6	1	5	学内の整理・整頓・清掃に関して定期的に管理・チェックがされているか	4	3	2	1	職員掃除当番表、各クラス掃除担当区域表
6	1	6	施設・設備の点検、補修・修繕等は定期的にまたは適宜行っているか	4	3	2	1	各種報告書

6	2	中項目	学外実習、インターンシップ等(校外の実習、インターンシップ、海外研修等について、十分な教育体制を整備しているか)					
6	2	1	学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4	3	2	1	事業計画書、、連携企業との実施に関する協定書
6	2	2	実技・実習に先立って、職業倫理や情報の取扱いに関する規程・マニュアルや規則が整備されているか。	4	3	2	1	連携企業との誓約書、担任による口頭指導
6	3	中項目	防災・安全管理(防災・安全管理に関する体制を整備しているか。防災訓練等を実施しているか)					
6	3	1	防災に対する組織体制を整備し、適切に運用しているか	4	3	2	1	危機管理マニュアル
6	3	2	防災・防犯設備(非常灯・消火器・警備システム等)が整備・点検されているか	4	3	2	1	消防用設備点検報告書、警備業務請負契約書
6	3	3	定期的に防災訓練を実施しているか	4	3	2	1	年間案行事予定表、防災訓練実施要項、防災訓練実施報告書
6	3	4	学校における安全管理の整備を行っているか	4	3	2	1	各種点検報告書、危機管理マニュアル

① 課題

実技・実習に先立ち、職業倫理や情報の取扱いに関する規定・マニュアルや規則は、全てにおいて整備されているとは言い難い。防災安全管理は年に一度の避難訓練を行っているが、管理業者による設備チェックなどと連動した更に細かい訓練も必要。1年に1度だけでなく常にどう行動すべきか忘れないよう意識付けを行わないと他人ごとになっている危惧がある。

② 今後の改善方策

実技・実習に先立ち、職業倫理や情報の取扱いに関する規定・マニュアルや規則は、全てにおいて整備されているとは言い難いため、トラブルが発生しないよう、改めて整備する必要がある。

③ 特記事項

7 学生の受入れ募集				適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1				エビデンス
7	1	中項目	学生募集活動(学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか。社会人入学生、留学生、障がい者等、多様な学生の受入れについて方針を明確にしているか)					
7	1	1	学生募集活動は、適正に行われているか	4	3	2	1	事業計画、学校案内パンフレット(募集要項)、進学相談会記録、高校訪問記録、OC用説明資料、HP
7	1	2	入学者受け入れ方針(アドミッション・ポリシー)を策定し、学校構成員(教職員および学生等)に周知し、社会に公表しているか	4	3	2	1	事業計画、学校案内パンフレット、HP
7	1	3	学校案内に、育成人材像、特徴、目指す資格・免許等をわかりやすく紹介しているか	4	3	2	1	学校案内パンフレット、HP
7	1	4	学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集を行っているか	4	3	2	1	学校案内パンフレット(募集要項)
7	1	5	入学に関する問い合わせ等に適切に対応できる体制ができているか	4	3	2	1	事業計画、職員各係表、HP
7	1	6	学校説明会等による情報提供(育成人材像、評価手段及びその基準、目指す資格・検定・コンペ、学費・教材費等の情報)を行っているか	4	3	2	1	OC用配布資料、学校案内パンフレット、HP
7	1	7	入学予定者に対し学習指導・支援等は行われているか	4	3	2	1	
7	2	中項目	入学選考(入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか)					
7	2	1	学校案内等には選抜方法が明示されているか(入学に必要な学力、スキル、資格、職業経験などの、前提となる要件が明示されているか)	4	3	2	1	学校案内パンフレット(募集要項)、HP、各業者メディアページ
7	2	2	学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に入学者選抜を行っているか	4	3	2	1	書類選考、必要に応じて面接を実施
7	3	中項目	学納金(学納金は妥当なものとなっているか)					
7	3	1	学納金は妥当なものとなっているか	4	3	2	1	理事会議事録、学校案内パンフレット(募集要項)
7	3	2	学校案内等に、学費、受験料、学習教材の購入費等が明示されているか	4	3	2	1	学校案内パンフレット(募集要項)、HP

① 課題

学生の受け入れ募集は、スケジュールと予算を決め、概ね戦略的に行われている。本校の最大のメリットは、歴史の長い伝統校という信頼と、立地、そして確かな実績である。主な広報物にパンフレット、ＨＰを活用している。しかし、広報担当の人員不足もあり、より手厚い広報業務を行うには人材の確保が急務である。前年度のデータ分析や、広報全体のビジュアルの提案、戦略等の明確な指示は無く、広報委員会を立ち上げを次年度に向けて企画していく必要性がある。しかし、これまで培ってきた経験をもとに、現在は問題なく適宜対応できている。募集人数と、学科編成も時代に沿い適宜見直すべきだが、明確な策が見当たらないため、現在は実施に至っていない。
入学選考は、募集要項に明文化しており、その基準に応じて選考をしている。しかし、基本的に書類上での選考である為、試験を実施していないので、基礎学力に満たしているかを知る手立てを有しているわけではない。今後は、書類審査と資質を図る基準も整備する必要がある。
学納金は、極力家庭の負担を軽減できるような価格に設定しているが、若者減少を視野に入れた場合、学納金の見直しの必要も十分にある。また、入学予定者に対し学習指導・支援等を行っていないため今後は検討が必要である。

② 今後の改善方策
募集の戦略は、事業計画に細かく指針を示しているため、役割分担を明確にして進めていく必要があり、多様な広報チャネルの活用やビジュアルとメッセージの強化改善と併せ、データを活用した戦略の最適化を図ることが得策だと考えらる。次年度は広報担当者の確保、並びに広報委員会の立ち上げが必要である。 学科編成と、募集人数、学納金に関しては、これからの時代必要とされるスキルと人材を研究せねばならない。しかし、これは学校運営に関わることから、学園法人本部と相談する必要がある。 入学予定者に対し学習指導・支援に関しては、合格証発行時点で、これからの学びに関して明文化しているが、それ以上の実施には至っていない。今後は、個人の学習差が顕著になる事も鑑みて、プレカレッジプログラムの導入及び、学びの基本姿勢を極力平均化できるよう実施することも視野に入れていかねばならない。
③ 特記事項

8 教育の内部質保証システム				適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1				エビデンス
8	1	中項目	関係法令、設置基準等の遵守(法令、専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行なっているか)					
8	1	1	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4	3	2	1	監査報告書、学則変更届
8	1	2	業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4	3	2	1	内部規定類
8	1	3	関係法令に基づく管理運営に関する学内諸規程を整備し適切に運用しているか	4	3	2	1	ハラスメント防止規程、個人情報の保護に関する規程、ストレスチェック制度実施規程等
8	2	中項目	個人情報保護(個人情報に関する規程を整備し、個人情報に対する対応を取っているか)					
8	2	1	学校が保有する個人情報保護に関する対策を実施しているか	4	3	2	1	事業計画、学生要覧、個人情報の保護に関する規定
8	2	2	個人情報保護規程が文書化されているか	4	3	2	1	個人情報の保護に関する規程
8	2	3	個人情報の取扱いについて、教職員に対し周知し、意識づけができているか	4	3	2	1	事業計画、学生要覧
8	3	中項目	学校評価(自己評価、学校関係者評価+教育課程編成委員会の実施体制を整備しているか)					
8	3	1	学校教育、学校運営について、自己点検・評価を実施し、さらに課題解決に取り組んでいるか	4	3	2	1	学校関係者評価および教育課程編成委員会の評価表・改善書、自己点検・評価表
8	3	2	自己点検・評価報告書にまとめているか (自己点検・評価報告書があるか)	4	3	2	1	学校関係者評価および教育課程編成委員会の評価表・改善書、自己点検・評価表
8	3	3	自己点検・評価の組織があるか	4	3	2	1	学校関係者評価委員および教育課程編成委員名簿、組織図
8	3	4	学校関係者評価の実施体制を整備し、学校関係者評価を実施し、改善の取組みを行っているか	4	3	2	1	学校関係者評価委員会議事録、学校関係者評価委員名簿

8	4	中項目	改革・改善(各学科の教育目標、育成人材像に向けて自己点検・評価活動の実施体制を確立して改革・改善のためのシステムが構築されているか)					
8	4	1	自己点検・評価の必要性を全教職員に伝える機会を設けたか	4	3	2	1	職員会議事録
8	4	2	卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4	3	2	1	卒業生在職者一覧、企業訪問記録票、主任会議議事録
8	4	3	自己点検・評価の結果に基づき改善計画を策定したか	4	3	2	1	事業計画
8	4	4	自己点検・評価の結果に基づき期限を定めて改善計画に基づいた結果の検証がされたか	4	3	2	1	事業計画
8	4	5	学校関係者評価の結果に基づき改善計画を策定したか	4	3	2	1	事業計画
8	4	6	学校関係者評価の結果に基づき期限を定めて改善計画に基づいた結果の検証がされたか	4	3	2	1	事業計画
8	5	中項目	教育情報の公開(教育活動に関する情報公開を積極的に行っているか)					
8	5	1	教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4	3	2	1	HP(職業実践専門課程の基本情報:別紙様式4)
8	5	2	自己評価結果を公開しているか	4	3	2	1	HP(自己点検・評価表)
8	5	3	学校関係者評価結果を公表しているか	4	3	2	1	HP(学校自己評価に関する学校関係者評価結果)

① 課題

教育の内部質保証については、ほぼすべての項目で学則、指導マニュアル、また定期的に行う職員会議などで議題として検討し、対応しているため、適切に設置、運営されているといえる。
学校評価は、職業実践専門課程の設置要件である「学校評価委員会」を学校評価として位置付け、委員会において委員の方々からご意見を頂き、次年度、もしくは期中における改善に努めているが、第三者評価実施も視野に入れる必要がある。
改革・改善の項目では、学校関係者評価委員会、教育課程編成委員会での委員の方からの提言をもとに、学校全体の運営をはじめ、各学科のカリキュラムや学生指導へと落とし込んで、改善を目指して計画しているが、その実施状況を中間報告などでチェックしていく必要があるといえる。

② 今後の改善方策

学校評価、改革・改善においては定期的にチェックする機関として教育課程編成委員だけではなく、各科主任クラスによる会議などを設け、客観的な視点の検討会を設けるようにする。

③ 特記事項

9 財務				適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1				エビデンス
9	1	中項目	財務基盤(学校の中長期的な財務基盤は安定しているといえるか)					
9	1	1	教育活動を安定して遂行するために必要かつ十分な財政的基盤を確立しているか	4	3	2	1	資金収支計算書、活動区分資金収支計算書、事業活動収支計算書、貸借対照表、財産目録、事業報告書
9	1	2	年度予算・中期計画が策定されているか	4	3	2	1	予算説明書
9	2	中項目	予算・収支計画(予算及び収支計画は有効かつ妥当か。予算及び収支計画に基づき、適正に執行管理を行っているか)					
9	2	1	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4	3	2	1	収支予算書、理事会議事録、評議員会議事録
9	2	2	予算及び計画に基づき適正に執行管理を行っているか	4	3	2	1	予算説明書
9	3	中項目	監査(財務について会計監査が適正におこなわれているか)					
9	3	1	私立学校法及び寄付行為に基づき適切に監査を実施し、理事会、評議員会に報告しているか	4	3	2	1	理事会議事録、評議員会議事録、監査報告書
9	4	中項目	財務情報の公開(私立学校法に基づく財務情報公開体制を整備し、適切に運用しているか)					
9	4	1	財務情報公開の体制を整備し、適切に公開しているか	4	3	2	1	財務諸表、HP(財務情報)
9	4	2	財務情報の公開について、ホームページに公開するなど積極的に取組んでいるか	4	3	2	1	HP(財務情報)

① 課題
予算については、前年度実績および次年度の事業計画に基づき、決定できているが、予算に対しての進捗や経過などの把握が十分とはいえない。
② 今後の改善方策
実績に基づく定量的な分析等を実施し、効率的な経営計画が学園の一組織として適正に行えるよう、予実管理の仕組みを構築する。
③ 特記事項
財務に関しては、学園本部が法令および寄附行為に従い適切に遂行しており、財務基盤は安定している。

10 社会貢献・地域貢献				適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1				エビデンス
10	1	中項目	社会貢献・地域貢献(学校の教育資源や施設を利用した社会貢献・地域貢献を行っているか)					
10	1	1	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4	3	2	1	会場・什器貸出依頼書
10	1	2	地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか	4	3	2	1	
10	2	中項目	ボランティア活動(学生のボランティア活動を奨励・支援しているか)					
10	2	1	学生のボランティア活動を奨励し、具体的な活動支援を行っているか	4	3	2	1	世界水泳ベアラー等を学内募集

① 課題

社会貢献・地域貢献は、積極的に実施している。しかし、イベント等の参加では、休日開催等は職員の負担にもなり、場合によっては就業規則(労働基準)に抵触してしまうケースもある。カリキュラム上授業の変更及びそれに関わる人員の不足により限界がある。広報活動として学生作品の露出と学校知名度の露出を行いながら産官と連携で取り組める活動が必要であると考える。また、ボランティア活動の取り組みでは、職員と学生は学校近隣の清掃を実施している。それ以外は、インクルーシブ教育に取り組んでいるが、それはボランティア活動として捉えておらず、デザイナーとしての資質向上を謳っている。

② 今後の改善方策

今後は産学と協力した社会貢献を模索しながら、地域に広く理解をしてもらう必要があるので、HPなどで明文化し、取り組みを発信していく。
ボランティアに関しては、広報と絡めて学校内で定義を明確にし、職員、学生の活動を無理のない範囲で応援できるよう整備していく。

③ 特記事項

11 国際交流				適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1				エビデンス
11	1	中項目	留学生の受入れ・海外への留学(留学生の受け入れ、海外への留学における学習支援や生活指導等を適切に対応し、管理体制を整備しているか)					
11	1	1	留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか	4	3	2	1	事業計画
11	1	2	留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか	4	3	2	1	入管提出書類一式、学籍管理システム、旅行傷害保険、令和5年における教育機関の選定結果について(通知):適正校(クラスⅠ)
11	1	3	留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか	4	3	2	1	担任、就職担当でサポート
11	1	4	学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	4	3	2	1	成績証明書(英字様式)、HP、就職率

① 課題

留学生の受け入れに関しては積極的な施策は行っておらず、また学生においても具体的な受け入れ体制は整備していないのが現状である。今後の進展として留学生の受け入れを検討していくことも必要ではあるが、まずは国内の学生の受け入れ、指導が最優先と考える。
しかし、海外への研修や留学の斡旋などは積極的に行っており、国内だけでよしとするのではなく、グローバルな視点を持つ学生を育てられるように取り組んでいる。

② 今後の改善方策
留学生の受け入れに関しては、現在行っている海外研修などを足掛かりとして交換留学などの制度を構築していく、もしくは行政、企業などと連携した形での取り組みを進めることなど検討してく必要があると考える。
③ 特記事項

令和５年度　学校関係者評価結果　公開資料　　2024.12 現在

※評価点：A 特に優れている　B 優れている　C 普通　D 優れていない　E 要改善

１．教育理念・目標　A

教育理念・目標とも素晴らしい内容であり、定期的な見直しもされている。教職員・学生にも会議や式などで十分に周知されていて、今後の社会のニーズに合わせる努力をされている。伝統を理念として浸透させることで、学校の特色を強みにすることができている。技術のスキルだけでなく、どんな困難なときでも知恵を出し、人を助け、人から必要とされる人材の育成＝今、まさにこれからのビジネス社会に必要な人材です。技術教育だけでなく、人間教育にも力を注がれており、良いと思います。優れた技術を最大限に発揮するためには、豊かな人間性が必要、という教育理念は素晴らしい。

世の中の変化が早いので校長が話していたように何事にも更なる「挑戦」をしていって頂きたい。
時代変化に合わせた将来構想に不安があるようだ。中期計画策定をする際に、若い参画者がもっといてもいいのかもしれない。目標のはっきり分からない学生は将来の成長の差が出る為、考え方の訓練、応用の訓練などの教育の授業も必要ではないか？保護者や生徒本人が入学時に考えることは、就職に繋がるかどうかなので、業界のニーズなどの調査はとても大切である。

２．学校運営　A

運営方針・組織・教職員の評価や育成など、事業計画書に沿って適切に運営できていると思う。多岐にわたる仕事を遂行されている教職員は素晴らしいと思います。

先生たちのマンパワーで対処されていることが多いと思うので、足りない分はチームワークでバランスが取れるともっといいと思う。先生のマンパワーに依る取り組みが多い印象なので、教員の方々の疲弊は依然として心配。とはいえ、人的サポートは強みだと思うので、教員・学生数のバランスの再設定も必要かもしれません。どこの企業も教育現場も教える人の成長と疲弊が課題です。指導者育成、モチベーションアップ、役割意識向上のため、民間企業での経験豊富な外部講師との交流などを通じての学びが大切かと思います。教職員の評価制度が自己評価のみの為、客観的な評価が必要。また教職員に負荷・負担がかかりすぎない仕組みづくりと業務改善、効率が必要。
教職員に対する評価制度を整備される際には、先生方の負担にならないようにしてください。毎日直に学生と向き合いながら、自己研鑽も怠らない、ということは素晴らしいですが、体力的に大変ではないか。

３．教育活動　A

教育活動が主となり、一番大変だと思うが、学生に寄り添ってファッションの好きな人をしっかり育ててほしい。学科ごとに明確な育成像があり、時代変化に合わせてカリキュラムを見直すことにより、質の高い教育が実践されている。今からの世の中に通用する「質」を客観性、俯瞰性を持ってフィードバックしなければならない。目標設定、教育方法、評価体制、資格体制、指導など、概ねシラバスで整備されている。各科目的にあったカリキュラムがあり、一コマごとにシラバスが作成されていて教職員が共通理解をもって取り組んでいて良い。様々なコンクールで多くの学生が受賞しており、十分な成果を上げていると感じる。教育目標達成のためには、緻密な資料作成が基本になると思いますが、大変ンな作業である。授業評価アンケートの結果については、学生の立場からの回答のため、それに準ずるような評価のみに依存すると良くない気がする。学生の声も大事だが、バランスをとることも必要。

時代背景で今の学生さんの考え方も以前と違うと思うが、変わらないものもあると思うので、そこは押さえて活動して欲しい。会議では先生方の声は聞けるが、学生の声を聞いていないので、その接点ができれば、より質の高いアドバイスができるのでは。九州以外で現場を経験した人からのお話も必要ではないか？一人もとりこぼすことなく向き合うことや、情熱と冷静さも求められる。

4．教育成果　A

数々のコンペでの入賞、意識の高い学生が多い。各種コンテストでの受賞成果もあがっており、学修成果に関しては高い水準で出ている。目指す人物像にそぐわない学生が出てくるのは仕方ない。目標が持てないなら、目の前の課題を徹底的に行うことに成長のヒントがある。各学科の目指す人物像に沿って教育されており、そぐわない学生には、個別指導など、適正評価を行い、柔軟な対応を行なっている。多様な学生に対しても個別指導をされ、資格など工夫し対策されている。通常の授業の中で資格取得率の安定を図る対策ができれば、それにこしたことはないので、とても良い。学生一人ひとりの修学、および就職に寄り添い、卒業後の支援までもおこなっているので、とても有難い。コンペやイベントで成果を上げているので、もう少し高校生に認知してもらえるとよい。

今の学生の将来の夢も千差万別と思いますが、職業実践専門課程を通じて、OBOG との交流が増えるといいと思う。専門学校の意義を思えば就職率を無視することはできないが、積極的な非就職者を前向きに評価する必要はあると思う。学校の目的と学生の目的にズレがないか検証してもいいかもしれない。今の世の中、SNS など通信ツールが発達しすぎて、話す表情などが分からなく、人と向き合うことに逃げられるようになっている。大変と思うが、個別面談の回数を増やし、聞き出しをやっていくことも。働き方の多様化により、フリーランス、独立なども増えてきた。ここも評価する必要がある。上手くいっている成功事例など周知しても良いと思う。保護者にとって子供の資格・検定などは就職にまたは人生設計にまでつながるので、大事。

5．学生支援　A

中途退学の対応に苦慮されている、とのことだが、それ以外は優れていてしっかり対応している。コミュニケーションを大事にする香蘭らしく、学生一人一人と誠実に向き合っている姿勢は本当に素晴らしいと感じる。最初の就職先がうまくいかなくても、学校に相談しやすい環境を作っている。教職員一同、学生ファーストで物事を考えて、運営に携わっている。様々な体制、支援もしっかり整っている。家庭と連絡をとったり、欠席や退学をする学生への対応が、教職員も学校も努力していると思う。様々な背景を持つ学生に対し、きめ細やかな対応をあれていると感じる。ひと昔前とは違った時代背景のせいにはせず、粘り強く対応している。担任の先生だけでなく、学校長を始め、学校全体で学生一人ひとりに親身に支援をしてくださっていると思う。コロナ禍を経験し、出席に対する学生の意識は変化したように感じる。

課題にしている中途退学の対応や欠席への改善は、本人たちの問題もあり難しいと思われる。原因をつかみ、しっかり対応して欲しい。コミュニケーションを重視するとどうしても時間がかかる（先生方の負担が増える）と思う。学生間（上下級生・在校生と卒業生）対企業関係者などより総合的に学生をサポートする仕組みができるとよい。

6．教育環境　A

地震に対する訓練・避難訓練も行われている。場所的にも天神に近く、すばらしい教育環境。情報管理に関する不安を除いては、おおむね適切に運営されている。施設、設備も十分に整えられており、学外実習、インターンシップなど、教育体制もしっかりと整備されている。職業実践専門課程では、企業との取り組みでリアルな体験を学生時代に味わえることは貴重な体験だと思う。素晴らしい施設、設備で、防災安全面もしっかり管理されていて、安心である。デジタル系の機器については日々進歩している為財務的に大変と思うが、充分だと思う。

防災安全管理は年に一度、というより日頃から周知徹底されることを望みます。情報管理は企業防衛においても優先順位の高い項目である。その点においては危機意識と共に正しい教育は必要。ファッションの専門学校ですが、香蘭女子短期大学と同じような学校のつくりになっている感じがする。資金の関係もあるでしょうが、刺激のある校舎とは言えないような感じもします。創造力を養う校舎・教室はどうですか？幸い福岡市は甚大な被害に見舞われることが少ない為、危機意識が希薄だと思う。普段から防災意識を高めるのは大切だと思う。

7．学生の受入れ募集　B

募集の為の対策は、従来通りの基準に沿って適切に運営されている。コンテストなどで賞を獲得されて、認知度はかなり上がっていると思います。その他の福岡の短大、専門学校に比べれば努力の差が感じられます。表現は難しいですが、愛情を持った学生の将来のための厳しき専門学校であって欲しい。業界の低迷から募集人数に達することが難しいことは十分に理解できる。広報委員会の立ち上げ、担当者、SNS の強化など、確保に対しての工夫はある。高校生向きの広報をされてとても工夫していると思う。学生募集についてはあらゆることに取り組まれており、高校でも参考にさせて頂きたい。入学する学生の資質を見極めるのは難しいと思いますが、コンテストの実績を考えると、技術指導が確実に伝わっていると思う。吸収できるだけの学生が入学していて、広報の成果は確実にあると思っています。受け身ではなく、戦略的に行われており、学校教育法の改正によって変化する部分においても既に行動している。歴史の長い伝統校であり、確かな実績がある、という貴校の強みを広く知って欲しい。

合格者に対するフォローは実施する必要があり、少子化による定員現象が考えられることからファッションの魅力を伝えていくことが重要である。入学の選考基準は一定のハードルを設けてもいいと思う。経営に関わることなので、安易には言えないが、個人的には学生を減らしてでも質を上げ、その分学費をアップしても良いと思う。九州 NO.1 のファッションの学校としての歴史と実績があることから、学生の確保は必須条件と思う。
もっと学生とのふれあい、PR,SNS マーケティングなど強化し、数値化して適正な目標値が必要だと思う。
娘がいるが、熊本では香蘭の名前は聞かない。学校はポスターなどなかったので、貼ってあれば良いと思う。
入学予定者へは課題などを出しても良いのでは。今後は紙媒体から SNS・HP へのシフトチェンジ、ということですが、紙媒体は保護者の目に留まりやすい、という利点もある。保護者が学生の想いを受け止めてくれればいい、と思う。本人主義とは言え、親子のコミュニケーションは学費援助からも必要不可欠だから。入学前教育の検討もありかと思う。

８．内部質保証　A

適切に設置、運営されている。外部関連の会議をよくされていて、学ぶ姿勢・良くしていこうという姿勢を感じる。すべての項目で学則、指導マニュアルは職員会議などで検討、対応されており、適切に設備、運営されている。組織的に運営されており、良いと思う。学校内部のみの自己評価ではなく、各関係者による学校評価はとても良いと思います。定期的に行われている会議や学校評価委員などとても風通しがよいと感じる。

学校関係者評価の運営など、第３者の意見を十分に生かして更なる質向上に努めて頂きたい。世の中の変化に対して、教育も進化、成長していかないといけないと思います。

９．財務　A

財務基盤が安定している。学園本部もしっかりしており、安定している。財務状況は安定していると聞いている。収支計画、BS、事業報告書などしっかり作成されている。また財務情報など HP で公開されている。できる限りのペーパーレスへの取り組みは、整理整頓にも繋がると思う。

予算管理は大事なので、仕組みを構築して頂きたい。働いている教職員と学んでいる学生が誇れるソフト面とハード面への投資をして欲しい。潤沢な財務のためには入学者数増ですが、少子化の道、厳しい。

１０．　社会貢献　B

地域の依頼に積極的に活動している。学校運営の中での位置付けをされていると思う。人数が少ないので、十分できないと思いますが、小学生向けの講座は時間が許す限りやって欲しい。洋服作りに興味を持ってもらう久山町との取り組みは素晴らしい。専門学校の周りの清掃などその良きロケーションの場で学べる感謝への行動が大切。学校の教育資源、施設などの貸出、積極的に社会、地域貢献を行なっている。職業実践専門課程でも十分貢献されていると思う。学校の特性を活かしてできるボランティアがあればいいと思いますが、時間が必要。成人を対象に市の公民館への出前講座も良いとは思いますが、先生の人数に余裕がないので難しい。地域への挨拶だけでも地域貢献になると思う。
もう少し地域貢献か、近くの小中学校へ何かできないか？地域からの依頼があれば取り組むとのことなので、継続できるものは継続する方がよい。

１１.国際貢献　C

留学生の受入れ、派遣については、積極的ではないが、その他の項目は適切に行われている。留学生の受け入れなどは現状難しいと思う。海外の富裕層の学ぶモチベーションは、今の日本人より高い方が多いと聞く。全体のレベルを上げるためにも留学生を増やすべきと思う。難しいことだが、研修などで成果が出ると良い。まずは国内の学生を優先、というのは良いと思う。

ファッションはグローバルに動いているので、情報は積極的に取って頂きたい。グローバルな視点は時代背景からも必須である。日本の良さを再確認する意味でも、世界を知る機会は大事にして欲しい。海外の SNS などですばらしさを発信する。多様化が進んでいく中、グローバルな視点を持つためにもある程度の留学生の受入れは必要。日本語の理解度、生活習慣の違いなどで習熟度が問題点になる可能性が懸念される。留学生がファッションを目指す層が減ってきているように感じる。　以上